



年頭にあたって

代表理事組合長 高橋 秀樹

平成29年の新年を迎え、組合員並びにご家族の皆様には謹んで新春のお喜びを申し上げます。日頃より農協事業・運営に対し深いご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年の営農を振り返ってみますと、ビートや馬鈴薯の植付時期は強風にみまわれ、土埃が舞う中での作業でありましたが、概ね順調に植付が進んだと思われまます。しかし、6月中旬頃からは長雨が続き、管理作業は天候を気にしながらとなりました。小麦につきましては開花時期や収穫時期の天候不順により、品質・収量ともに前年を大きく下回りました。8月にはたてつづけに北海道を襲った4つの台風が農作物に甚大な被害をもたらし、馬鈴薯をはじめとする畑作物は、災害の中での収穫作業となり、結局満足できる品質・収量を得る事が出来ませんでした。酪農や畜産では、プール乳価の値上げや個体販売の価格は底堅く推移しましたが、夏の天候の影響を受け、牧草やデントコーンの適期収穫が出来なかったため、飼料の質・量が不安要素となっています。このようにかつて経験した事の無い災害年を乗り越えられましたのも、ひとえに組合員の皆様の日頃の営農努力の賜物と敬意を表す次第です。平成28農協事業年度も残すところ2ヶ月余りとなりましたが、決算期に向け益々鋭意努力して参る所存であります。

農業を取り巻く情勢は、TPP交渉に関しては農業と関連産業だけでなく、医療、保健制度への影響等、国民の生活に多大な影響を与えることが懸念されていましたが、11月の国会では承認案、関連法案が衆議院可決されました。しかし、その後のアメリカ大統領選でTPP離脱を表明するドナルド・トランプ氏の就任により、依然として先行きの見えない状況が続いています。農協改革に関しては、准組合員の利用量規制の導入、全農の株式会社化、中央会制度の廃止といった規制改革が、農協改革の主要目的である「農業者の所得向上」、「農業の成長産業化や地域創生」に逆行しかねない状況です。今後とも政府の動向、移りゆく農業情勢を注視しながら、長期展望を持った対策を農協組織として政府に求めていく姿勢が必要かと思います。

今、農業は益々不透明さを増しておりますが、「信頼・利用・満足されるJA」の経営理念を基に、組合員の皆様の営農と生活に貢献し、JAの使命を果たすべく、役職員一体となって業務を遂行する所存であります。

新年度は第8次中長期計画のスタート年であり、組合員の皆様から頂いたアンケート結

果に基づき、現在5ヶ年計画を策定しております。組合員の皆様には中長期計画の趣旨をご理解頂き、ご協力賜りますようお願い申し上げます。平成29年は災害も無く稔多き豊穡の秋を迎える事が出来ます様、併せて組合員ご家族の皆様のご健勝を心よりご祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。



新年を迎えて

札幌農業協同組合 代表監事

組合員の皆様、新年明けましておめでとうございます。御家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのことと思います。

思い起こせば、28年は雪解けも早く、春耕期の作業、播種作業とも順調に進みました。しかし、6月に入り天候不順となり、日照不足、多雨などで農作物が多大な被害を受けました。また、8月中旬以降4回の台風の影響で収穫作業の遅れが心配されました。9月中旬以降10月下旬まで比較的天候も良く、順調に進んだものの、11月上旬の降雪により、ビート、長いもの収穫に影響がありました。

作物的に見ますと、小麦は6月の日照不足の影響で、全量2等、収量も前年の6割程度となりました。豆類においても、前年の6分作程度、てん菜においても、湿害の影響で、収量で1割減、糖分は16%代と思われます。馬鈴薯は、収量で2割減となり、今後の有利販売に期待します。野菜類も、天候不順の影響で播種期の遅れ、収穫期の遅れなど、大変な1年でした。畜産においては、飼料高という事もありますが、ほぼ計画通りで、家畜消流においては近年の高価傾向が継続しています。

農業情勢は、農業者の高齢化や担い手不足など農業の構造変化が続く中、農業政策は転換期を迎えています。そういう中で、11月の国会においてTPP承認案、関連法案が衆院を通過しました。その後の米国大統領選で、TPP反対を表明しているトランプ氏が当選しました。今後の交渉に影響が出る事が考えられます。また、政府の規制改革推進会議においては、JA全農と指定生乳生産者団体制度の改革方針が決められました。今後の会議の提言に注目していきたいと思います。

農協の運営では、8次の5ヶ年計画の策定年であり、皆様方のアンケートに沿って、役職員で取り進めているところです。事業においては、農作物の不作などで、計画を下回る事が考えられます。監事会として監査業務を通して経営全般の強化に取り組んでいきたいと考えておりますので、組合員各位におかれましては引き続き、ご協力をよろしくお願い致します。

本年も災害が無く、豊穡の出来秋を迎える事が出来ます様、心から祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。



年頭にあたり

北海道農業協同組合 中央会会長

組合員並びに J A 役職員の皆様方には、ご健勝にて輝かしい平成 29 年の新年を迎えられたものと心よりお慶び申し上げます。

皆様方におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げる次第です。

昨年の北海道農業は、春先からの天候不順、8 月中旬から相次いで上陸・接近した 4 つの台風の影響により、河川の氾濫、農地の流出、関連施設の損壊、停電による生乳廃棄など、全道各地で甚大な農業被害が発生しました。

現在もその傷跡は依然として深く残っており、復旧・復興に向けた懸命な努力が続けられているところです。

今後とも、J A グループ北海道は、組合員の皆様が夢と希望を持って営農と生活が続けられる環境を整えること、地域農業と J A の発展に全力でサポートいたします。

また、農協改革を標榜した規制改革推進会議農業ワーキンググループでの提言、次期米国大統領ドナルド・トランプ氏の T P P 離脱・日米二国間交渉の表明など、我が国の農業・J A にとって先行き不透明感が増大する情勢変化があった一年でした。

J A グループ北海道は、今後とも政府並びに各国議員等に対して、必要な要請運動を展開することで組合員の皆様の不安を払拭し、持続可能な北海道農業の確立に向け、万全な対応がなされるよう強く求めていく所存です。

さて、現在、J A グループ北海道は、第 28 回 J A 北海道大会のメインテーマである「北海道 550 万人と共に創る 力強い農業と豊かな魅力ある農村」の実現に向けた決議事項に基づき、その着実な実践を図っているところです。

昨年は J A グループ北海道の実践状況について、全体共有を図るとともに実践への機運を高め、J A グループ内外に実践状況を発信すべく、J A 北海道大会実践フォーラムを開催したところです。

組合員・J A ・連合会・中央会が、各役割を再確認した中で、J A グループ北海道の英知を結集し、北海道 550 万人から信頼され、ともに歩いていく J A グループ北海道を目指しております。関係各位の特段なるご理解とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

一方、農業情勢では、世界規模での異常気象の発生、人口増加、経済情勢の変化などを背景に、国際的な食料の需給事情は常に不安定な要因を抱えており、我が国として、先を見据えた中で食料自給率の確保などによる食料の安全保障体制をいかに確立していくかが

問われています。

言うまでもなく、農業は、食料の安定供給という、国民生活に欠かすことができない極めて重要な役割を担っている生命産業であり、その役割は未来永劫変わることはありません。我々農業者・JAグループは、その責任感と自負心のもと、改めて協同と相互扶助の精神に立ち返った中で、現下のさまざまな課題を克服すべく、力を合わせていく時であります。さらに農業・JAに対する幅広い理解と共感を得るべく道民550万人サポーターづくりの取組みを積極的に進めながら、長年にわたり先人が築き上げてきた本道農業並びにJAの基盤をさらに発展させ、後世に継承するよう、ともに頑張ろうではありませんか。

結びになりますが、今年の干支は丁酉(ひのととり)です。一説には、丁は、「安定する」という意味があり、酉は「果実などが成熟し実る状態」を表しているとのことであります。今年、この酉年にあやかり、天候に恵まれ実り多い安定した一年となりますよう、併せて、北海道農業並びに組合員の皆様の一層の発展を心よりご祈念申し上げ、新年にあたってのご挨拶といたします。



新年のご挨拶

札内農業協同組合 青年部長

新年明けましておめでとうございます。皆様方には、謹んで新年のお慶びを申し上げます。また、日頃より青年部活動に対しましてご理解、ご支援、ご協力を頂いております組合員の皆様、農協役職員の皆様には改めて感謝申し上げます。

昨年は春先に降水量が多かった事や、5月の強風被害、7月の大雨など天候不順が続いた事に加えて、8月に4つの台風が本道に上陸し甚大な被害をもたらしました。農産物の生育、品質に大きな影響を与えた一年となりました。

青年部の活動では、天候の不順が続き農協施設周辺の環境整備事業の中止という形を取らざるを得ませんでした。7月には恒例行事となっております農協役職員とのパークゴルフ大会も雨で中止という残念な結果になってしまいました。10、11月には幕別町教育委員会と協力し実施している食育事業を札内南小学校、北小学校の3年生146名の児童を対象に行いました。内容は札内南小学校がビートの収穫体験、札内北小学校が牧場見学を行いました。児童たちがイキイキと体験や学習をしている姿を見て、私も嬉しくなりました。そんな子供たちへ安心安全な農作物を届ける事が、一番大事な事だと感じました。今後も次世代を担う農業者となるべく、各種事業を通じて知識や技術の習得、盟友個々の意識の向上を図り、地域農業の振興と魅力ある青年部活動を目指していきたいと考えております。

一方、昨年は大筋合意されたものの先行きの見えなくなったTPP、規制改革会議におけ

る生乳指定団体制度の廃止や組勘制度の廃止など、私たちの築き上げてきた組織の根源をも揺るがす事が議題として次々に挙げられています。到底納得できる方向には進んでいません。非常に厳しい農業情勢になる中、私たち農業青年は今まで以上に、命を支える食と農業の大切さを多くの方々に伝え、力強い農業を作り上げていかなければならないと思います。

最後に、本年も変わらぬご支援ご指導をお願い申し上げますとともに、部員各位、そして組合員の皆様の今年一年のご健康とご多幸を祈念し、年頭の挨拶と致します。



新年のご挨拶

札内農業協同組合 女性部長

女性部員、ご家族の皆様、新年明けましておめでとうございます。輝かしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。平成28年度も、たくさんの事業計画に基づき部員の皆様のご協力により、進める事が出来ました。

さて、昨年の女性部事業を振り返ってみますと、6月22日にスズランボウルにて下部組織合同交流会を開催し19名の部員と専務、女性部担当理事にもご参加頂き、各団体混合で熱戦が繰り広げられました。

8月10日に『トンボ玉』作りの生涯学習を開催しました。例年までは、女性部員だけで行っていましたが、今年は銀鈴会、さくらんぼの会、友の会にも声をお掛けし、夏休みというタイミングもあり部員のお子さん、お孫さんもたくさんご参加頂きました。ガラス棒をバーナーで炙って溶けたところを芯棒に巻き取りガラスの玉を作っていきます。初めて体験された方が多かったのですが皆さんオリジナルのキーホルダーやネックレスを仕上げる事ができ、ご参加頂いた部員のお子さん達も大満足の様子でした。

8月17日に行われた1日バス研修では、北見・網走方面に行って来ました。北見ではハッカ記念館を見学し、日本薄荷の製品を見学しながら、蒸留方法や日本薄荷からしか結晶を作ることが出来ない事、それによる北見の薄荷景気のお話を伺いました。普段私が畑で使っているハッカの虫除けスプレーは日本薄荷ではなくペパーミントだったことが分かったり、ハッカの効能などを学ぶ事が出来ました。美幌では、地元の美幌牛を頂きました。隣接のお肉屋さんで、ひときわ目を引く霜降りのお肉の産地が「十勝幕別産」だった事にびっくりしました。改めて十勝の肉牛の素晴らしさを再確認する事が出来ました。網走では、流氷館と網走刑務所を見学して来ました。流氷館では流氷の下の生き物や流氷がもたらす恵みなどを学び、網走刑務所では当時の受刑者達の生活ぶりがロウ人形で再現されているのを見ました。

昨年は春からの長雨や数十年ぶりの台風の被害、長芋の収穫時期には、例年より早い根雪

の影響で作業や小麦の防除の遅れなど、ご苦勞の多い年だったと思います。

女性部の活動事業は1月に管外研修を予定していましたが、昨年の天候不良と不作による気苦勞なども考え、今回は1年の慰勞を兼ねて、温泉一泊でゆっくりして頂く事にしました。

アメリカの大統領が代わり、T P P交渉の不透明さも増し、心配事の多い状況ではありますが、今年は天候に恵まれ安心して秋を迎えられる様な年になって欲しいと願っております。

これからの農業政策や私たちの経営や暮らしが今後どうなるのか、不安を隠せないところでもあります。女性にしかできない役割を自覚し、地域の方々とも助け合いや交流を深めることも、農業を守るためには大切なことであると思います。女性部ではこれからもたくさんの部員の方に活動へ参加して頂ける様、努力して行こうと思っております。

最後になりましたが、皆様が健康で明るく過ごせる1年であることを願い、今後ともご指導ご協力をお願い申し上げます。簡単ではありますが、新年のご挨拶とさせていただきます。

JA 北海道大会実践フォーラム

平成28年11月2日、JAグループ北海道は共済ホールにて「JA北海道大会実践フォーラム」を開催しました。全道のJA・連合会・青年部・女性部の代表者約750名が参加し、昨年11月に開催された第28回JA北海道大会決議事項の実践状況について、JAグループ全体の共有を図るとともに実践への機運を高め、JAグループ内外に実践状況を発信する初めての試みとなりました。今集会では、パネルディスカッションと、JAグループとして大会決議の実践への意気込みを宣言する、JAグループからのメッセージ発信を行いました。

パネルディスカッション「協同の力で実現する農業所得20%増大に向けて」ではJAいわみざわを事例に、将来予測、現状把握、問題・課題の洗い出しから具体的対策について発表が行われました。同じくパネルディスカッション「道民と食と農でつながる550万人サポーターづくりに向けて」ではJAきたみらいを事例に、JAの施設・事業を利用するサポーターづくり、JA活動に参加して頂くサポーターづくり、様々な体験活動の実施、ホームページや地域コミュニティ誌を広く発信する事等の実施内容を紹介しました。パネリストの方からは、大会決議の実践に向けて、多くのアドバイスを頂く事ができました。

大会決議の実践状況については、「農業所得20%増大」と「新規担い手の倍増」の数値目標の設定に対して約半数のJAが事業計画に反映しており、各実践方策も80%のJAで計画反映を行うなど、取り組む体制が整いつつあります。「サポーター550万人づくり」は、道民が食と農に興味を持つきっかけとなり、地域と繋がるプラットフォームとしてスマートフォンアプリを開発し、7月25日にダウンロードを開始するなど、取り組みは全道的に展開しています。

今回のフォーラムでは、JAグループ北海道の方向性として揚げられた「北海道550万

人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある農村』の実現に向けた基本目標と実践方針に、組合員・J A・連合会・中央会がそれぞれの役割と重点的に取り組む事を再認識しました。

青年部 幕別町立学校食育事業



幕別町教育委員会の主催で実施されている食育事業が11月14日に当農協青年部の協力により、札内北小学校3年生31名を対象として牧場見学と体験学習をしました。

生徒達は牛についての授業、牛舎の見学、牛の餌やり体験を行いました。牛舎の中で行われた授業では、牛についてクイズ形式で授業を行い、楽しみながら学習しました。また、牧草ロールを間近で見ながら牛の餌の種類について学んだり、干し草を手渡しで食べさせたりと、生徒達にとって貴重な体験をすることが出来ました。

積極的に質問をする生徒達を前に、青年部員も良い経験が出来たと振り返り、今年度の食育推進事業を終える事が出来ました。

JA 十勝青年部大会

11月24日、日航ノースランドにてJA十勝青年部大会が開催されました。当農協からは5名の部員が参加し、『ONE～希望あふれる未来へ～』という大会テーマのもと、他の単組との交流会や意見交換を行いました。

「JA青年部の主張発表大会」では、6単組の代表がそれぞれ発表を行い、JA青年部組織の強化と活動活性化について、他の模範となり今後の発展性が期待される事例や、地域内農業およびJA活動への具体的な成果をあげる実例が取り上げられました。部員一同、他の単組で行われている青年部活動に興味津々な面持ちで話を聞いていました。



女性部友の会 料理講習会

女性部友の会の料理講習会が12月1日に幕別町百年記念ホールで行われました。女性部友の会で毎年行っている料理講習会は『地域牛乳・乳製品需要拡大事業』に基づき実施されており、全品に牛乳・乳製品が使われています。

今回のメニューは「ティラミス」と「とり肉のクリームシチュー」の2品で、味・出来栄え共に両品、皆さん大満足のいく料理が出来ました。

ティラミスは作り方も簡単で、家族へのお土産に沢山作って帰りました。また、クリームシチューも美味しく、大成功の内に終える事が出来ました。

